

こんかいのゾーン

SCHEDULE

日付	予定
7/18 水	定例ミーティング 梅酒・野菜種づくりWS
7/19 木	
7/20 金	
7/21 土	
7/22 日	
7/23 月	川崎市訪問
7/24 火	
7/25 水	

こんかいのまちグルメ



東京都中央区勝どき・おたべ鮓

今回メンバーが訪れたのは、東京五輪に向けて環状二号線の工事が進む注目のエリア「勝どき」。地下鉄を降り、駅直結の勝どきビュータワー2階にある「おたべ鮓」へ。夜は居酒屋としても人気が高く、ハリウッド俳優も訪れるという本格的なお店ですが、ランチタイムにはリーズナブルな海鮮丼や握りをいただくことができます。築地市場の対岸という好立地を生かした新鮮なネタに舌鼓を打ちました。写真は「ばらちらし鮓」（1080円）。



雨が恋しくなるような快晴が続く東京。

雨が恋しくなるような快晴が続く東京。快晴。快い晴れ。快い？いやいや、7月21日現在、東京の不快指数は86。不快そのものです。それでも、晴れ＝「良い」天気という概念が日本に限らず世界中にあります。確かに、今回の西日本豪雨で被害に遭われた方からすれば雨は悪の権化に他ならず、洗濯物が干せなかったり外で遊べなかったりといった日常のワンシーンを思い浮かべても、雨＝「悪い」天気というレッテルを貼られてしまうのは仕方ないのかもしれませんが。

しかし、1年のうち約3分の1は雨が降るといって日本。雨を悪者扱いしているようでは人生の3分の1を損しているといっても過言ではないでしょう。

そもそも日本には雨の風情を慈しむ文化があり、五月雨、時雨、糸雨など美しい言葉もたくさんあります。確かに雨の日の神社やお寺は不思議と心が落ち着きますし、公園や畑、街路樹などの緑も潤って見えます。また、子どもたちにとっては新しい長靴や傘をお披露する貴重な機会でもありますね。晴れの日と雨の日で異なるまちの表情を、五感をフル活用しながら探してみるのも乙かもしれません。

最近では雨の新しい楽しみ方も生まれています。例えば長野県安曇野にはかの有名な建築家・槇文彦氏の設計による「TRIAD」と呼ばれる建築群があり、そこでは樋を設けずに雨を地面に落とし楕円形の砂利敷で受けることで、雨の通り道が美しいフォルムとして視覚化されています。ぜひ雨の日を選んで訪れてみたいですね。

一方ハード面で雨を活用する技術も進んでおり、舗装に浸透材を用いて雨を地下水に還元させたり、貯留した雨水を建物内で循環させて冷暖房に活用したり、雨水により池を作ることで生き物の住処を用意したりするなど、雨水が下水ではなく資源として扱われるようになりつつあります。

人間、そして都市空間が、抗うことのできない自然の摂理をポジティブに受け入れ楽しむことができるようなゆとりを持つことができれば、雨が「良い」天気と呼ばれる日も近いかもしれません。

参考：<http://amenomichi.com/>

こんかいの一言▽井上：今年一番の暑さの中で4時間半のまちあるきをしました。日焼け止めが必須ですね。▽櫻本：都市農輪講で現地見学に行ってきました。一口に都市農といってもさまざまな形がありますね。▽木村：夏より冬派ですが、運動後に冷えた麦茶をがぶ飲みする瞬間は夏大好きです。▽原：本を一気に8冊買ってしまい、また積ん読が増えました。▽：秋月：賛否両論ありますがうなぎを食べました。▽：時丸：郊外住宅地の現地見学で暑すぎて寒気がしました。熱中症です。▽久保田：いろいろな国から来た仲間と見るワールドカップは盛り上がります▽植田：日々の楽しみのうち食事が占める割合がどんどん高まっています。